

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370074

研究課題名(和文) 19世紀のアジアと日本におけるフランス系宣教会及び修道会と教育に関する比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study on Influence of French Religious Congregations and Missionaries on Catholic Education in Asia and Japan in 19th Century

研究代表者

佐々木 裕子 (SASAKI, Hiroko)

白百合女子大学・文学部・准教授

研究者番号：60286888

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀の日本におけるカトリシズムに基づく教育事業はフランス系修道会の影響下のもとに進められてきたことが知られているが、フランスからの直接の働きかけだけでなく、すでに行われていたアジア各地での教育・福祉の実践を経て、日本での教育事業にかかわったケースが少なくない。本研究では、自然災害や戦争などによって失われた日本におけるフランス系修道会の教育に関する各種資料を、フランス本国やアジア各地の古文書館等との連携によって調査収集し、一部をデータベース化することにより、日本におけるキリスト教女子教育を包括的に研究する土台を構築すると共に、国際共同研究歴史の新たな側面を明らかにする可能性を開いた。

研究成果の概要(英文)：It has been well known that Catholic education in 19 century in Japan was prepared by French missionaries and French religious congregations. However, most of those missionaries come to Japan not directly from France but from some Asian countries. They had experienced of educational/social welfare activities with the people in some Asian countries before they came to Japan. In this research, historical documents and materials concerning Catholic education by French religious congregations in Japan, which were lost because of natural disasters and war, were collected from the archives in France and Asian countries in order to have a whole survey of Catholic education in this period. Also the database of those materials was constructed and it leads to a possibility of international collaborative research in Asian countries on this field.

研究分野：宗教学

キーワード：修道会 教育 カトリシズム アジア

## 1. 研究開始当初の背景・動機

近年、社会の多文化化、グローバル化に伴い、宗教教育や宗教系学校の教育に関する研究が注目を集めているが、日本においてはこれまでカトリシズムに基づく教育の調査研究は一部を除いてはほとんど行われてなかった。これは多くの研究蓄積がなされてきているプロテスタンティズムの教育実践とは異なり、カトリシズムの学校が日々の教育に重きを置き、自らの教育実践を文字による記録として残すことにさほど積極的でなかったという背景がある。それはカトリシズムの教育事業が多くの場合、修道会によって担われており、そこにはある種の「無名性」が内包されているために生じてきた一般的な傾向であった。この傾向は教育史学においても宗教学においてもしばしば指摘されることであり、明治以降の日本における教育史学、とりわけキリスト教主義教育の「全体像」を今日においても掴みにくくさせている大きな要因の一つであることが指摘されてきた。

また、同じ修道会でありながらも、フランスと日本、あるいはアジア各地における活動内容やミッション・ステイトメントやあり方がそれぞれ現地のニーズや歴史的背景等の要因との関係で変容しているものの、従来、多くの場合において、アジア各地の状況の比較というよりは修道会の本部の国や地域との直接的な関係のみで論じられる傾向があり、アジア地域でのフランス系修道会の教育実践の全体的な理解には至っていない現状があり、より広い視点からこの問題を研究する必要があると考えるに至った。

## 2. 研究の目的

本研究ではこのような問題意識に立った上で、日本のカトリシズムの教育の最初期に関わる修道会や女子教育に関わる学校に関する一時資料を整理、掘り起こし、今後の本領域における研究に資する基礎文献データ及び基礎研究を整えることを第一の目的とした。

さらに、フランス系修道会の本国外での具体的な教育事業活動の研究においては、従来、比較の視点があまりなかったことから、本研究では、まずは国内には残っていない関係資料について、フランス本国の修道会関係古文書館やアジア地域にある、日本に関する資料や日本宣教に関わった人々の書簡・著書・研究書などを掘り起こし、また、国内に散在している資料を収集・整理することにより、今まで見えてこなかった修道会と教育（あるいはその初期においては福祉）の関係を綴り直すことを第二の目的とした。

それらを修道会の創立者の霊性や修道会の創立の精神に関する記録、当時の、また今日の、カトリシズムにおける教育理念や修道会のあり方・活動などと比較することにより、

19世紀における、より広範囲でのフランス系修道会の教育活動・福祉活動実践についての全体像を捉え直すことを全体の目的とした。

## 3. 研究の方法

この目的を果たすために、本研究では以下のような調査・研究方法を用いた。

(1) フランス・イギリス及びアジア地域における修道会及び関連施設古文書館における文献調査の実施。

フランス、フィリピン、香港、イギリスにおける関連古文書館において、フランス系修道会に関する文献資料の収集・デジタル化を試みた。特に焦点を当てた修道会の設立が17世紀に遡ること、特定の著名な創立者によって設立された修道会でなかったことから、包括的な文献収集がなされたことがほとんどなかったが、今まで日本では知られていなかった資料などを収集、整理した。

(2) 国内における修道会及び関連施設古文書館における文献・資料収集調査の実施。

(1)に加えて、国内の関連施設のうち、天災や戦争などによる被害がなかった古文書館や図書館からの関連文献・画像などの資料収集を実施した。また、フランス系修道会については、日仏文化交流の視点などからも多角的に文献収集を行った。

(3) 面接調査の実施

文献収集調査と共に、国内及び海外（フランス・アジア地域）における面接聞き取り調査を実施し、アーカイブ化を行った。

(4) 資料のデジタル化・アーカイブ化

以上の(1)～(3)において収集された資料に関しては、可能なものに関しては博物館学の専門家によるアドバイスなどをもとに、画像資料を含めてデジタル化し、データ・ベース化を試み、今後の研究段階において必要とされる資料批判的な視点からの読み直し等を可能にするための準備を行った。

## 4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

19世紀のアジアの女子教育においてフランス系女子修道会が果たした役割が大きいことは以前から認識されてきたが、その際、それらの修道会のフランス系会員たちの教育実践は、彼女たちの本国での教育実践に焦点が当てられて語られることが多く、彼女たちが「経ていったアジア」の地域性や歴史的背景を考慮して語られることはほとんどなかった。本研究では、むしろこの視点を重視し、同じフランス系修道会がアジア各地で行った活動を、それを受けた側の立場から比較することに重きを置き、調査・研究を実施した。

特に、幾つかの修道会を除き、日本に係する修道会の教育事業に関してはまとまっ

た資料が残されていないことから、修道会の本国において関係歴史書、手紙、報告書などの小さな記録を積み上げていく必要があった。今回、開国後、比較的初期に来日したフランス系修道会の日本にかかわる資料に関して、その創設期からの資料をほぼ網羅的に収集・整理することができた。データ・クリーニング及び資料の読み込みに関する事柄は今後の課題として残されているものの、それらのデータによって、従来、特定の側面からのみ語られてきた修道会による女子教育の発展について、今後のこの分野の研究の一助となるものとなったと考える。

とりわけ、修道会の教育事業と福祉事業に関しては、同時並行的なものとして認識されてはいたものの、教育を語る場合、福祉事業との関連については多くが語られることがなかった。しかしながら、本研究を進める中で面接調査を重ねるうちに、これらの福祉事業が、われわれが当初想像していた以上の相互作用を持っており、教育実践において大きな役割を果たしていたことが明確となった。

## (2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

第一には、日本におけるキリスト教系女子教育の比較研究におけるプラットフォームを準備できたことが上げられる。

前述の通り、19世紀のキリスト教女子教育が語られる場合、主にその先鞭をつけた、アメリカから来日した女性宣教師たちの活動、すなわちプロテスタンティズムに基づく女子教育について語られることは多かったが、フランス系修道会によるカトリシズムの女子教育実践についてはあまり語られることがなかった。それは先に触れたように、修道会というものの性質上、自らの活動に関して記録を多く残さないという一般的な特性によるところが大きいといえるが、今回、修道会の教育実践を19世紀のアジアを拠点とした教育実践運動という視点から見直すことにより、日本におけるキリスト教系女子教育を、アメリカからの女子教育事業とアジア経由のフランス系女子教育事業の両方の視点から比較して、全体的に考察する準備が整えられたと考える。

第二には、今回の研究・とりわけ現地調査によって、従来、ヨーロッパのものとしてのみとらえがちであった修道会による教育事業を、アジアという場において発展・変容したカトリシズムという視点から捉え直すという同じ問題意識を持つ海外の研究者との交流が可能となったことがある。お互いのデータ・ベースを持ち寄りすりあわせる作業などが実際に行なわれたが、それぞれのデータ・ベースから漏れている情報を提供し合い、補完しあうことができた。これは一つの国の中での研究では得られなかった具体的な共同作業の実りであった。本研究の中間報告資料なども、今、現地において翻訳が試みられ

ているところであり、それらの資料の共有の積み重ねにより、国際比較研究の基盤が整備されてきたことが、この分野の国際比較研究において本研究の成果であると考えられる。

## (3) 今後の展望

上で触れたとおり、19世紀のアジアの女子教育において大きな役割を果たしたフランス系修道会であるが、今世紀に入り、公的學校制度の充実、修道者の減少などがあいまって、現在、その草創期に活躍した修道者たちの活動を掘り起こし、再構築しようという動きがアジア各地の研究者の間で起こっていることが確認できたことが、文献研究だけでは十分に認識し得なかった本研究での大きな成果の一つであった。

その意味で、実際に現地の修道会や修道会系学校の古文書館担当者・研究者たちと意見交流・歴史的資料の相互補完などが具体的にできたのは貴重であり、そこから発展し、アジア諸地域における同一修道会の教育実践から、我が国におけるカトリシズムに基づく女子教育を再評価することという新たな視点を開くこととなった。具体的には、アジア諸地域をまたいだかたちでの修道会による女子教育実践 - グローバルな視点からの女子教育実践 - とそれぞれの社会へのインパクト及び変容に関する比較研究を構築するための共同研究の可能性が具体的に開かれた。現在、これを基盤とした共同研究の模索がなされているが、今後のこの分野に関する国際比較研究に資するものとして発展させていけるものと考えている。

また、フランスーアジアー日本との関係を考える上で、フランス系修道会がヨーロッパ各地においてもユニークな広がり・発展をしていたことが確認できたことも、今後の修道会を宗教運動として捉えた時に重要となってくる視点である。とりわけ、同じヨーロッパであっても非カトリック国であるイギリスやヨーロッパ各地において、当時のフランス系修道会が女子教育や福祉事業に関して果たした役割は大きいですが、これは、従来、あまり知られることがなかった点である。

19世紀までのヨーロッパにおけるフランス系女子修道会の役割については、アジアのみならず、ヨーロッパ各地における働きについても同時に視野にいれて比較研究をしていくことにより、女子修道会が活動を行ったそれぞれの社会における役割をより複層的な視点から捉えていくことを検討している。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 12 件)

市川誠、「Filipino Migrants and Religion: Comparison of Cases in Australia and

Japan」, 立教大学教育学科研究年報、59 号、2016 年、3-14 頁、査読無。

釘宮明美、「エディット・シュタインの『十字架の学問』への道 - 精神的危機の時代からの歩み」、白百合女子大学キリスト教文化研究所紀要、17 巻、2016 年、1-28 頁、査読無。

佐々木裕子、「19 世紀イギリス及びフランスにおける女子修道会の連携に関する一考察 - イギリスにおける『使徒聖パウロの愛徳修道女会(Sisters of Charity of St. Paul the Apostle)』の誕生をめぐる」、白百合女子大学紀要、第 51 号、2015 年、1-23 頁、査読無。

佐々木裕子、「『宗教文化士』資格制度が問いかけるもの、カトリック教育研究(日本カトリック教育学会) 32 号、2015 年、27-37 頁、査読有。

釘宮明美、「エディット・シュタイン著『十字架の学問 十字架のヨハネ研究』(2)』(翻訳と注解)、白百合女子大学キリスト教文化研究所論集、査読無、16 巻、2015 年、38-62 頁、査読無。

佐々木裕子、「カトリックの大学教育 - Michelle Pansard 師に聴く」、クロニカ(白百合女子大学キリスト教文化研究所) 33 号、2015 年、14-15 頁、査読無。

市川誠、「フィリピン人移住者にとっての教会の機能、東京とシドニーの事例の比較から」、キリスト教教育研究、31 巻、2014 年、1-15 頁、査読無。

佐々木裕子、白百合の源泉をたどる 2 ペルテユイ、Pertuis ショーヴェ師誕生地の地、クロニカ(白百合女子大学キリスト教文化研究所報) 査読無、27、2014 年、12-13 頁、査読無。

釘宮明美、稲垣良典先生のご講演『大学の神学』をうかがって、クロニカ(白百合女子大学キリスト教文化研究所報) 32、2014 年、10-11、査読無。

釘宮明美、「キリ文研の貴重書(3)『ミニニユ教父全集』」、クロニカ(白百合女子大学キリスト教文化研究所報) 31、2014 年、6-7 頁、査読無。

釘宮明美、Efforts toward New Evangelization at Shirayuri College、白百合女子大学キリスト教文化研究所論集、15 巻、2014 年、1-12、査読無。

市川誠、「フィリピン移住者にとっての教会の機能」、キリスト教教育研究、31 巻、2013

年、1-15 頁、査読無。

[学会発表](計 3 件)

大迫章史、戦時下におけるキリスト教主義学校、学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス公開講座、2013 年 11 月 30 日~2013 年 12 月 14 日、仙台市市民活動サポートセンター(宮城県仙台市) 招待講演。

大迫章史、戦時下におけるカトリック学校の動向に関する研究、日本カトリック教育学会第 37 回大会、2013 年 8 月 31 日、星美学園短期大学(東京都北区)。

釘宮明美、Efforts toward New Evangelization at Shirayuri College、The 9<sup>th</sup> SPC International Educator's Congress、2013 年 5 月 10 日、Saint Paul College Pasig (Manila, the Philippines) 招待講演。

[図書](計 5 件)

栗田和明編『流動する移民社会 環太平洋地域を巡る人々』(市川誠、「フィリピン人移民と宗教 オーストラリアと日本の教会にみる」) 昭和堂、2016 年、全 192 頁。

西村亜子他、『フランス語日本紹介事典 JAPAPEDIA』、IBC パブリッシング、2016 年、全 306 頁。

クラウス・リーゼンフーバー、『クラウス・リーゼンフーバー著作集』、1-5 巻(釘宮明美編訳) 2015 年、全 2293 頁。

文藝別冊 神谷美恵子(釘宮明美、神谷美恵子とキリスト教 魂の認識への献身と人間の宗教性) 河出書房新社、2014 年、全 208 頁。

中井珠子、三修社、『フランス人が日本人に聞く 100 の質問』、2013 年、全 291 頁。

[その他](計 4 件)

佐々木裕子・釘宮明美・小林淑子、「フランス系女子修道会と日本におけるカトリック女子高等教育 1 (中間報告資料) 2016 年、50 頁。

佐々木裕子・釘宮明美・小林淑子、「フランス系女子修道会と日本におけるカトリック女子高等教育 2 (中間報告資料) 2016 年、36 頁。

佐々木裕子・釘宮明美・小林淑子、「プティジャン版とシャルトル聖パウロ修道女会の歩み」、白百合女子大学図書館、2013 年 6

- 7 月、一般公開展示。

佐々木裕子・釘宮明美・小林淑子、「白百合女子大学の源流をたどる」白百合女子大学図書館、2014 年 11 - 12 月、一般公開展示。

## 6 . 研究組織

### (1) 研究代表者

佐々木 裕子 (SASAKI, Hiroko)  
白百合女子大学・文学部・准教授  
研究者番号 : 60286888

### (2) 研究分担者

釘宮 明美 (KUGIMIYA, Akemi)  
白百合女子大学・文学部・准教授  
研究者番号 : 00549256

中井 珠子 (NAKAI, Tamako)  
白百合女子大学・文学部・教授  
研究者番号 : 60169414

西村 亜子 (NISHIMURA, Ako)  
白百合女子大学・文学部・准教授  
研究者番号 : 60276409

市川 誠 (ICHIKAWA, Makoto)  
立教大学, 文学部, 教授  
研究者番号 : 60308088

大迫 章史 (OOSAKO, Akihumi)  
仙台白百合女子大学, 人間学部,  
准教授  
研究者番号 : 60382686